

4. 室戸岬大敷ソナー調査

室戸岬大敷ソナー調査

漁業科 浜田 英之

1. 目的

定置網周辺における魚群行動をスキヤニングソナーを用いて把握する。

2. 方法

(1) 調査場所

室戸市室戸岬町 津呂石の渚沖定置漁場

(2) 調査期間

平成 2 年 2 月 21 日～2 月 22 日（連続 23 時間）

(3) 使用船舶、機器等

海洋漁業調査船 土佐海洋丸 48 トン 750 馬力

カラースキヤニングソナー 古野電気製 型式 CHS 20

ビデオカセットレコーダー ナショナル製 型式 AG6011A

調査船は図 1 のように下台から約 150 m 離れた地点に沖丘に錨を打って固定した。

スキヤニングソナーはレンジ 500 m, ティルト角 4～6° で使用した。また, ビデオ録画は 120 分テープに 6 倍モードで 12 時間ずつ録画した。

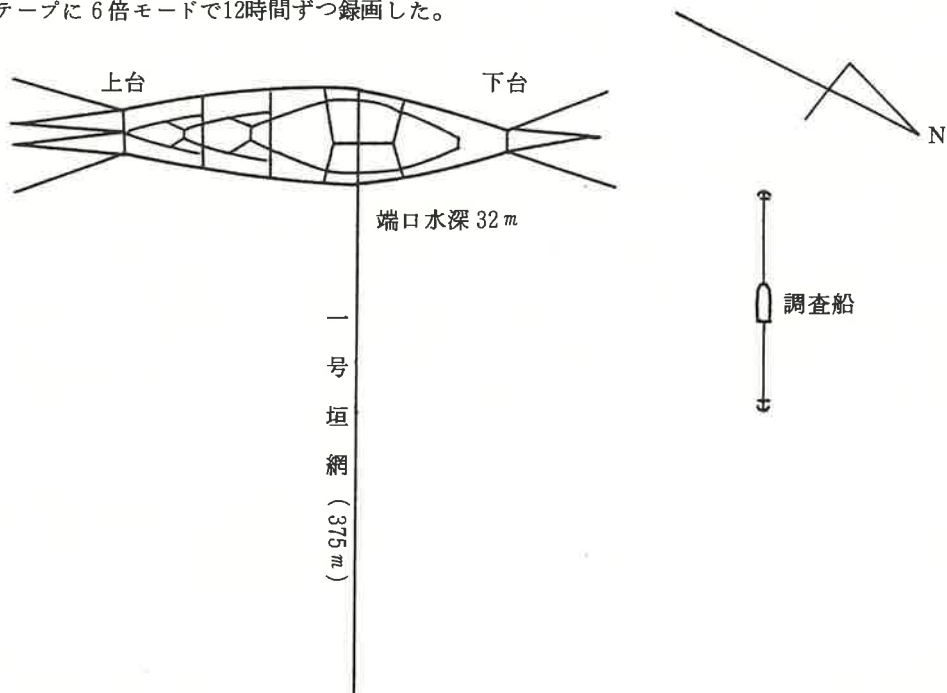


図 1 調査船碇泊位置

3. 結 果

調査は2月21日16時51分から2月22日16時5分までの約23時間実施した。調査期間を通じて、スキヤニングソナーで魚群と断定できる映像を捉えたのが1回(2/21, 20h 30m~21h 50m)のみであった。この魚群は調査船の230°~260°方向、約375 mの距離に出現し、約1時間20分後調査船の210°~230°方向、300~375 mの距離で消え去った。

また、調査期間を通じて室戸岬大敷の漁獲は低調で、2月22日の朝持ち(午前7時頃)及び昼持ちともにミナミハタンボを主とする雑魚が40~50kg漁獲されたのみであった。

調査期間中、潮流は調査船に装備されている超音波式潮流計で約1時間毎に測定したが、流速は0.1~0.3 kt、流向はE~SWでS/Eが卓越していた。

4. 考 察

スキヤニングソナー映像上の魚群は60 m×20 m程度の大きさで、1時間20分の間に陸の方向に200 m程移動した後映像上から消え去ったが、これは魚群が分散したためかも知れない。また、この魚群の魚種については調査の数日前より芸東地区の定置網で大漁の続いていたウマズラハギである可能性がある。

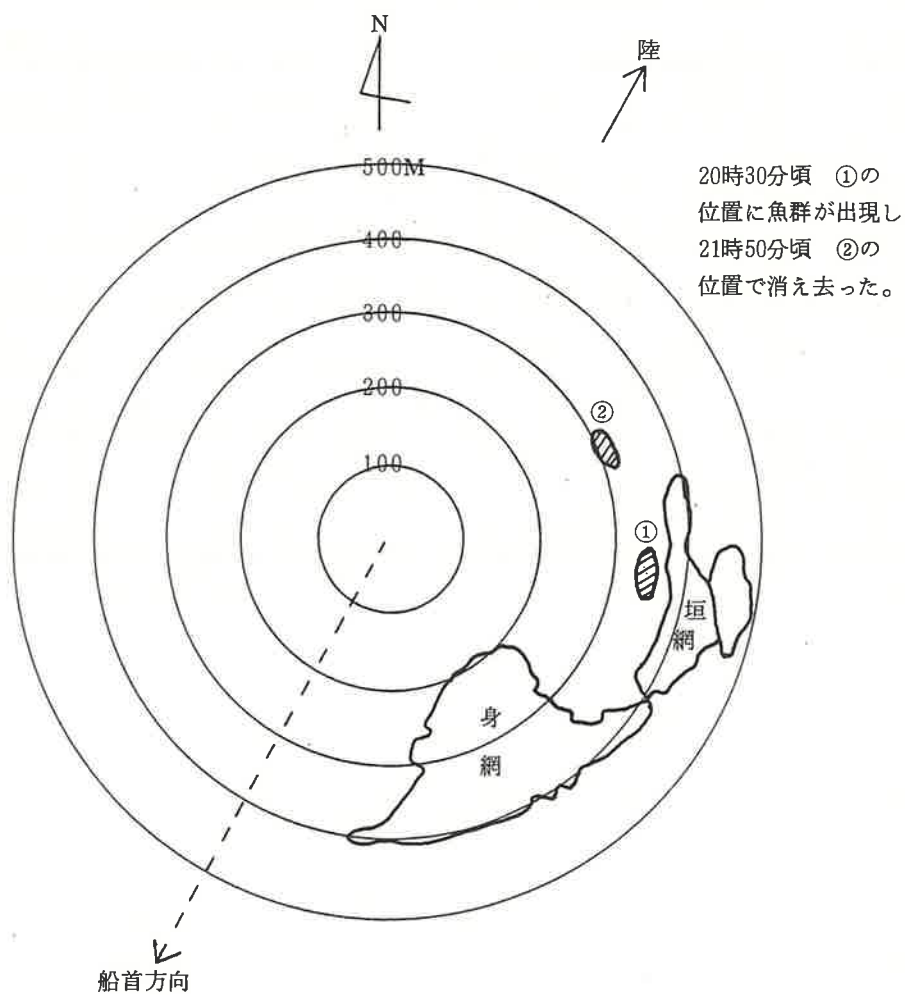


図2 カラースキャニングソナー映像模式図